

## 1 単元名 「多面的に調べよう アメリカ合衆国」

## 2 指導観

- 今日、日本とアメリカ合衆国は密接な結びつきを持っており、生活や文化においてもさまざまな面でアメリカ合衆国の影響を受けている。それは日本固有の現象ではなく、20世紀のアメリカ合衆国の生活・文化は、世界の広範囲に影響を与え続けている。

本単元では、アメリカ合衆国について学習することを通して、多面的に地域の特色をとらえる視点を身につけることをねらいとする。学習内容としては、多民族社会、農畜産業と貿易、鉱産資源と工業、生活・文化などがある。その際、日本とアメリカ合衆国を比較することにとどまらず、その生活様式は農業・工業の巨大な生産力を基盤とすること、文化の成り立ちが多民族構成によるものであることなどをふまえ、多様なテーマを設定して調べ、多面的に考える学習をすすめていきたい。

さらに、発展的な学習として、アメリカ合衆国で発祥した大量生産の産業社会と大量消費の生活様式が世界に広がったことは、私たちに多くの利便をもたらした反面、環境問題のような弊害も生じさせたことをとらえさせる。そして、日本の環境問題について、既習のドイツの環境問題に関するとりくみや歴史的な分野で学習した江戸時代のリサイクルなどと対比しながら考えさせたい。20世紀型の大量生産・大量消費の社会システムの現状を理解し、環境問題について考えさせることは、21世紀を担う生徒達にとって大変意義深いと考える。

- 本単元の授業に先立って、小学校時に外国についてどんな学習を行ったか事前アンケートを行った。それによると、約45%の生徒が韓国や中国について学習している。しかし、アメリカ合衆国について学習した生徒は10%にすぎない。そこで、アメリカ合衆国についてどの程度知っているかを尋ねてみた。その結果、アメリカに対するイメージとして「面積が広い、大都市、自由の女神、ハンバーガー、コーラ、メジャーリーグ、音楽、映画、テロ、銃」といったような答が返ってきた。つまり、テレビなどを通して視覚的に印象づけられたものが多いと考察できる。

一方、本学級の生徒は、1学年時の「都道府県の調査」では福岡県について多面的にとらえることを学習してきた。しかし、調べ学習に対する生徒一人一人の取り組みには温度差があり、学習内容の定着度は個人差が大きい。

- 本単元の指導にあたっては、アメリカ合衆国の産業の特色をつかみ、生活・文化がその巨大な生産力を基盤にしていることを明らかにする。

第1次の学習では、小学校の学習内容を踏まえてアメリカ合衆国に関する共通学習を行い、①多民族社会、②農畜産業と貿易、③鉱産資源と工業、④生活・文化の内容を細分して、個々の調査課題を設定させる。第2次の学習では、インターネットや図書資料などを活用して多面的・多角的に調べさせ、内容を小プリントにまとめさせる。第3次の学習では、各自が作成した小プリントを配布して発表させ、それを聞くことによってアメリカ合衆国の特色をつかませる。その際、これまで持っていた断片的なイメージをこの学習を通して系統立てた知識に高めさせたい。さらに、それらに関連づけて多面的・多角的にとらえるように指導していきたい。第4次の学習では、大量消費の生活様式が環境に及ぼす影響に関しては教科書に記述されていないことをふまえ、発展的な学習として、ドイツの単元で学んだ環境問題に対するとりくみなどと関連づけながら、今後の望ましい社会のあり方について考えることをねらいとする。

### 3 目 標

- アメリカ合衆国の地域的特色を多面的に調べる学習に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。  
【社会的事象への関心・意欲・態度】
- アメリカ合衆国の地域的特色を、多面的・多角的に考察することができる。  
【社会的な思考・判断】
- 気候区分図や人口分布図、鉱工業地域図などの読み取り、インターネットの活用を通して得た情報を適切に選択・活用して、アメリカ合衆国の地域的特色について表現できる。  
【資料活用の技能・表現】
- アメリカ合衆国の地域的特色を理解し、多面的に調べる視点と方法およびその知識を身につけている。  
【社会的事象についての知識・理解】

4 計 画

次	配時	学習内容・方法	評価規準 (評価方法)	評価基準		
				A	B	
1 次	1	1 小学校の学習内容を振り返る。 2 アメリカ合衆国についての共通学習を行う。 ・面積、人口、自然など 3 アメリカ合衆国の特色をとらえるための学習課題を設定する。 ・多民族社会 ・農畜産業と貿易 ・鉱産資源と工業 ・生活と文化	知 アメリカ合衆国のおまかな特色を理解することができる。 (小テスト)	アメリカ合衆国に関する小テストで8割以上取ることができる。	アメリカ合衆国に関する小テストで6割以上取ることができる。	
		2	1 インターネット等で調べ、それぞれの課題について内容を小プリントにまとめる。	資 内容を小プリントに適切に表現することができる。 <学習プリント分析>	調べた内容を自分の言葉でまとめることができる。	インターネットで適切な情報を集めることができる。
3 次	1	1 アメリカ合衆国の民族構成についての発表を聞き、特色をつかむ。 《個々の課題》 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口構成</li> <li>・ネイティブアメリカン</li> <li>・ヨーロッパ系</li> <li>・アフリカ系</li> <li>・ヒスパニック</li> <li>・アジア系</li> </ul> </div>	関 他者の発表を真剣に聞き、発表の要点をノートにまとめている。 (様相観察)  資 資料を適切に選択・活用して、アメリカ合衆国の地域的特色を表現することができる。 (小プリント分析)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の要点をノートにまとめている。</li> <li>・新たな疑問点を見いだすことができる。</li> <li>・わからないことを質問する。</li> <li>・相互評価カードを完成する。</li> </ul>	収集した複数の資料を関連づけてアメリカ合衆国の地域的特色をまとめることができる。	収集した資料からアメリカ合衆国の地域的特色をまとめることができる。
		2 アメリカ合衆国の農畜産業と貿易についての発表を聞き、特色をつかむ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模経営</li> <li>・機械化</li> <li>・適地適作</li> <li>・低コスト</li> <li>・牛肉</li> <li>・大豆</li> <li>・とうもろこし</li> <li>・綿花</li> <li>・小麦</li> </ul> </div>	思 アメリカ合衆国の地域的特色を、多面的・多角的に考察することができる。 (発表用原稿分析)	他のテーマと関連づけたり、アメリカの大まかな特色をふまえたりして、発表原稿をまとめることができる。	アメリカの大まかな特色をふまえて、発表原稿をまとめることができる。	
	1	3 アメリカ合衆国の鉱産資源と工業についての発表を聞き、特色をつかむ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉱産資源</li> <li>・航空機</li> <li>・医療用機器</li> <li>・コンピュータ</li> <li>・自動車</li> <li>・多国籍企業</li> </ul> </div>	知 アメリカ合衆国の地域的特色を理解することができる。 (テスト)	アメリカ合衆国の地域的特色をまとめるとともに、外国との関係をふまえて理解することができる。	アメリカ合衆国の地域的特色をまとめることができる。	
	1	4 アメリカ合衆国の生活・文化についての発表を聞き、特色をつかむ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映画</li> <li>・音楽</li> <li>・ファストフード</li> <li>・スポーツ</li> <li>・大量生産・大量消費</li> </ul> </div> 5 アメリカ合衆国のまとめをする。 6 <u>小学校との学習を比較する。</u>				
4 次	1	1 大量生産・大量消費と生活・文化の関連を理解し、環境問題について考える。	思 環境問題について多面的・多角的に考えることができる。 (学習プリント分析)	環境問題について、生活レベルから社会全体に広げて考えることができる。	環境問題について、生活レベルで考えることができる。	

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、各自の課題について調べ、発表を行い、アメリカ合衆国の特色を理解している。本時では、その内容を想起させながら、大量生産・大量消費の社会システムが環境に与える影響について理解し、環境問題について考えさせることをねらいとする。

まず、ファストフード店からのゴミの排出量を例にとり、アメリカ合衆国の生活様式が大量消費であることに気づかせる。次に、大量生産・大量消費の社会システムは 20 世紀初頭のアメリカ合衆国の自動車産業で発祥し世界に広がっていったことにふれ、自動車使用を例に個々の生活が環境に与える影響を理解させる。さらにドイツの環境問題に対すとりくみや歴史的分野「江戸のリサイクル」なども想起させながら、環境問題について考えを深めさせる。最後に、環境問題から見た日本のあり方を考えさせる。

(2) 主 眼

- アメリカ合衆国発祥の大量生産・大量消費の社会システムが世界に広がったことが、地球環境に重大な影響を及ぼしていることから、環境問題を多面的・多角的に考えることができる。 【社会的な思考・判断】

(3) 準 備

- ①ファストフード店での職場体験学習談      ②学習プリント      ③「車社会」小プリント

(4) 過 程

学習活動・内容	準備	手だて (○) と評価 (◇)	形態	配時
1 ファストフード店での職場体験学習談を聞き、ゴミの量を推算する。 ・ 1日あたりのゴミ排出量	① ②	○既習の知識を活かして考えさせる。	一斉	5
2 学習のめあてを確認する。 <u>大量生産・大量消費と生活・文化の関連を理解し、環境問題について考えよう</u>			一斉	2
3 アメリカの生活・文化と大量生産・大量消費社会についての説明を聞く。 ・ フォーディズム		○工業の発表や小学校時の自動車工場見学を想起させる。	一斉	10
4 自動車の利用について考える。 ・ 「車社会」の発表 ・ 自家用車やタクシーの利用距離	③	○自動車が環境に与える影響を考えさせるために、二酸化炭素の排出量を例に挙げる。	一斉	8
5 これまでの環境問題に関する学習を想起する ・ ドイツの環境問題 ・ 歴史的分野「江戸のリサイクル」			一斉	5
6 これまでの学習をふまえて、環境問題を考えたときに、これから先の日本をどんな社会にしていけばよいか考え、発表する。		○机間指導をしてつまずいている生徒への助言を行う。 ◇環境問題について多面的・多角的に考えることができる。 〈学習プリント分析〉	個人	15
7 次時の予告を聞く。		○発表した班の自己評価を回収する。 (授業後)	一斉	5